

令和5年度横須賀市文化振興審議会 議事概要

日時：令和6年（2024年）2月26日（月）

14:00～16:00

場所：横須賀市役所3階302会議室

- 【出席委員】** 秋岡委員、石川委員、崎山委員、芳賀委員、蛭田委員、藤井委員、山本委員、吉田彩子委員、吉田秀樹委員、若江委員
- 【事務局】** 文化振興課 森課長、赤城主査、遠藤主任
- 【傍聴者】** なし

<配布資料>

- 資料1 令和4年度文化振興基本計画進行管理結果報告書（案）
- 資料2 文化振興基本計画進行管理表（案）

<議事内容>

開会

会議の成立（委員10名中、10名出席のため、会議は成立）

議事

次第1 文化振興基本計画の進捗状況について

委員 本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。早速案件に入りたいと思います。委員の皆さま、ご協力お願いいたします。

それでは、文化振興基本計画の進捗状況について、事務局からご説明をお願いします。

事務局 「資料1」は以前の文化振興基本計画に対する進行管理表で、「資料2」は昨年策定した令和5年度からの文化振興基本計画に対する進行管理表の案です。

まず、「資料1」について説明します。

1 ページ（3） 進行管理表による進捗状況の確認について、対象事業の評価結果としては、「おおむね当初予定通り実施した：A」が86件、「予定なしまたは行わないとしていた取組。新型コロナウイルス感染症の影響で中止した取組：一」が6件です。

「一」としている6件の取り組みは、次のとおりです。

- ・29ページ、横須賀総合高校生徒と海外高校生との交流の推進で、令和4年度はコロナの影響により中止、令和5年度はエラノラ高校からの受け入れは行っています。
- ・39ページ、重要文化財等の指定は新規予定なしで、実績もなしで、令和5年度は1件指定予定です。
- ・51ページ、海辺環境の保全・再生は、令和元年からの見送りは継続している状況です。
- ・58ページ、姉妹都市との交流の推進は、令和4年度はコロナの影響で中止、令和5年度は実施しています。
- ・58ページ、近隣市町との文化交流の推進は、令和4年度はコロナの影響で中止、令和5年度は検討・調整を進めています。
- ・63ページ、みこしパレードは令和4年度はコロナの影響で中止、令和5年度は10月に開催されました。

令和4年度の進行管理に関しては、平成26年度からの文化振興基本計画に基づいているため、現時点では疑問が残る部分もありますが、そのあたりは「資料2」の新しい基本計画に対する進行管理表で反映させたいと考えています。

委員

それでは、「資料1」についての審議ということで、ご意見・ご質問をいただきたいと思えます。

委員 資料1と資料2がありますが、新しい基本計画を策定し、新しいコンセプトになっているので、そのまま全部引き継ぐというのは同じことをしているような印象を持たれるのではないかと
いう印象を受けました。

事務局 資料1に記載されている取組を精査して、新しい文化振興基本計画に合わせて、資料2を作成しています。

委員 資料1にはあるが資料2にはない、あるいは、資料2に新しく掲載したものが何かというのが見えるようになっていたりとかわかりやすいのではないかと思います。

事務局 現時点では作成していないので、次回以降の審議会でお示しできるようにしたいと思います。

委員 報告書は公開することになると思いますが、表紙の日付はいつになるのでしょうか。

事務局 令和6年3月になります。

委員 令和5年度に新しい基本計画の検討をしましたが、令和6年3月に令和4年度のものというのはい間延びした内容のように感じます。

委員 「資料2」の令和5年度からのものは簡単な表になっていますが、何か理由はあるのでしょうか。

事務局 表の形式で一覧を見ていただくほうが見やすいのではないかと
いうことをご提案しています。細かい話をしますと、古い進行管理表は個別の行事として項目が分かれていたものを新しい方では1つにまとめるといった変更はしています。

- 委員 同じ施策なので、令和4年度から5年度が繋がっているということはわかるのですが、新しく変わっているはずなのに変わっていないというのが少し釈然としない部分があります。
- 委員 令和4年度の結果報告書ということだと思いますので、本来は令和5年の5月か6月に出ないといけないものだと思います。
- 事務局 市役所の場合、9月から10月にかけて行われる市議会で前年度の決算報告、事業報告をしまして、市議会に承認をいただくという流れになります。本来であれば、文化振興基本計画の進捗管理結果報告についても10月、11月頃の会議開催が望ましいことだと思いますので、今の時期では遅く、間延びしているというご指摘はおっしゃるとおりだと思います。
- 委員 今お話しいただいたことを資料に入れていただいたり、説明をしていただいたりすれば、わかりやすかったと思います。
- 委員 「資料2」の話になりますが、「資料1」のように過去何年分かを記載してあると、これまでの経過がわかるように思います。「資料1」のような形式であれば、これから力を入れていく部分、弱い部分が見えてくるのではないかと思います。
- 委員 「資料1」の表紙には平成26年度から令和4年度、「資料2」の表紙には令和5年度から11年度と追記するとわかりやすいと思います。
- 委員 例えばですが、14ページの組曲「横須賀」演奏会、コロナ前の令和元年度が1,300人、2年間コロナで中止した後、令和4年度は入場者数が550人ということで、半分以下の回復状況で、「評価：A」となっていますが、評価：Aには何か意味があるのかなと思いましたが、いかがでしょうか。

事務局 「評価A」はおおむね当初予定通り実施したものを対象として
います。去年の審議会でも入場者や参加者の多い少ない、ある
いは開催回数の増減で評価すべきものなのかどうかという話が
あったことと思います。
人数や回数の増減で評価する仕組みがよいのかどうかという点
は、「資料2」でもご意見をいただければと思います。

委員 1ページの「下回った」という部分は、主に回数のことと読め
ますから、人数のことと考えるのは妥当ではないと思います。

委員 取組をA、B、Cに当てはめて評価すること自体がどうなのか
と思います。実施しなかったことで、コスト減や安全確保となる
こともあります。それに対して、低い評価をしてしまうのはど
うなのだろうという疑問はあります。評価基準の中に、評価で
きない、評価しないというような緩やかなものがあったらいい
のではと思います。

事務局 取組の評価に関して、新しい進行管理表ではどう考えるかとい
うご意見を皆さんからいただきたいと思っていましたところ
です。
「資料1」の進行管理においては、最終年度になって急に評価
を行わないということもできないと思いますので、評価をする
ということで進めるべきなのかなと思っています。

委員 評価に関しては、ほとんどがAになっているので、自己満足の
ようになってしまいますし、他にも項目が多いと見にくくなり
ますよね。今のような雑駁な評価であれば、いらないと思いま
す。文章としては、いろいろ書いてあり、網羅されていると思
うのですが、色合いのない実態の見えるこない報告書に感しま
す。

委員 本来であれば、評価というのは市民が行うものだと思いますので、自分たちの評価というのは内部的には必要かもしれませんが、あまり意味がないように思います。

委員 指標の方に出てくる矢印についても、継続か向上かということですが、何を示すのかというのがよくわからないですね。

委員 昨年の審議会でもありましたが、参加者の満足度がどう表れてくるのかというのが大事だと思います。ものすごくいいイベントでも、例えば、トイレが少ないなど何かあれば、満足度は低くなるかもしれませんよね。何かしら満足度を測るシステム作りをしないとそのあたりが見えてこないと思います。

委員 横須賀市でも行政評価というのものを行っていると思いますが、計画としては、行政側の自己評価と市民からの評価はやはり測定する必要はあると思います。

事務局 お話がありました組曲「横須賀」演奏会を担当していますので、補足をさせていただきます。
こちらの演奏会は、市民オーケストラ、大人の合唱、こどもの合唱という大勢がステージに立つ演奏会で、令和4年度の演奏会は3年ぶりの演奏会でした。報告書を見ると、数字上はコロナ前の半分以下の数字ではありますが、その裏では感染防止対策を行いながら、運営サイド、出演者の皆さんが努力をして、いろいろな想いをもちながら行われていることを知っていることで、評価の難しさを感じています。

進行管理に関しては、今までは報告の審議で終わっていましたが、昨年度、新しい計画を策定しましたので、評価に関する違和感が文化振興課としてありましたので、ご意見をいただき、わかりやすい形にしていきたいと思っていますところでは。

委員 コロナからの回復の時期がジャンルや分野によって違うのだろうなと読めましたが、報告書の数字だけでは今お話しいただいたようなストーリーや事情が見えてこない部分を感じます。

委員 例えば、ホームページ上で、事業毎に職員の方の苦労やストーリーが見えるPDFが出てくるようなことができれば、行政から市民の方への想いが伝わるのではないかと思います。ただ、職員の方々の負担が大変かもしれません。

委員 ここまでできているので、今いろいろあった意見をまとめて、どういった事情を踏まえ、評価を行ったかということを書き書いておいてもらいたいと思います。

委員 先ほどの下回るという部分は、回数のことになると思うのですが、事業の開催回数の増減ということを書きおけば、例えば、増えていけばAグループ、減っていけばBグループというようなことはできると思います。
ただし、評価というのは性質として馴染まない、無理だと思っています。今までこの形式でやっていますから、このタイミングで直すことはできないでしょうが、解釈としてはやはり回数の増減という意味で考えるしかないのだと思います。

委員 指標の部分で、矢印のマークがあり、「維持」というものがありますが、「維持」の意味が分からない。「継続」というような意味合いだとは思っているので、矢印はなくてよいから、「継続」と書くほうが良いように思います。

委員 令和4年度の報告書から今後の進行管理表の部分まで、いろいろなご意見をいただきました。ありがとうございます。
では、既に触れている部分もありますが、「資料2」のご説明をお願いします。

事務局 新しい文化振興基本計画の3つの施策体系「そだつ」、「つたわる」、「ひろがる」に基づき、各部署の取組を精査し、作成しています。

例えば、千代ヶ崎砲台跡の一般公開、ティボディエ邸の開館といったここ数年で始まった取組を追加しています。

「資料2」に関して、先ほどから話に出ています評価をどう考えるかという部分について、ご意見をいただきたいと考えています。

委員 指標の部分の矢印ですが、「相対的な方向性」ということがわかりづらく、数値目標ではないということですが、例えば、予算を増やすということなのか、そのあたりがわかりづらいと感じます。

事務局 数字目標という捉え方ではなく、維持というものは継続して続けていく、斜め上向きのもは予算がついてくるものであれば、市として前向きに取り組んでいくという方向性を示しているという意味合いです。

委員 項目について、新規のものは色を付けていただくなど、一目見てわかりやすくしていただけるとよいと思います。

文化振興基本計画ということなので、市役所が行うものだけでなく、市民や民間が計画に対して、どう取り組んでいるか、どう盛り上がったのかというのも書いていただけるとよいと思います。

例えば、ルートミュージアムのサテライトツアーも2日で11組32人ということですが、もっといろいろな市民団体やグループが浦賀などでも行っていますので、市民活動も取り入れてもらえると民間連携でいいものになると思います。

事務局 新しい項目については、わかりやすいよう表記するようにしたいと思います。

市民活動も取り入れられればという点に関してですが、市が行う取り組みの進行管理のため、市民活動は対象とはならない進行管理表になりますので、ご理解いただければと思います。

委員 進行管理表ですので、PLANがあつて、DOがあるということだと思いますが、実績としての数字だけを見ても、それが多いいのか少ないのか、一生懸命取り組んでいたのかどうかということとはわかりませんよね。例えば、先ほどの組曲「横須賀」演奏会については、説明を聞いてわかることができました。そういう意味で、コメントが必要な部分はコメントを書いた方がいいと思います。

アンケートというのは大事だとは思いますが、どうしても簡単な答えの方を選ぶ傾向があると思いますし、少し危険な部分もあると思っています。

委員 評価についてですが、市の文化施策に対して、どうだったかということであれば、評価はできると思います。人数が何人であった、回数が何回であったということへの評価は意味があるものではないと思います。横須賀市の文化行政を考える中で、何が伸びている、何が足りないということを受け止める力がないと評価は出せないと思います。市民の気持ちをくみ上げて、市の理想のようなものが見えてくるといいと思います。千代ヶ崎砲台などは興味を持っている人も多く、横須賀の財産の1つだと思いますが、表を作っても実態が見えてこない部分がありますよね。

委員 進行管理表は、文化振興基本計画に掲げられている目指すものに基づいているということによろしいでしょうか。また、令和

11年度までが横に並んでいく形なのか、それとも前年度との今年度だけの比較のものになるのか、そのあたりを教えていただけますか。

事務局 昨年度策定した文化振興基本計画に目指すべき方向性は記載しています。

令和11年度まで並べるかは悩んでいるところです。年を経るごとに物理的に用紙が横にどんどん伸びていってしまうので、古い進行管理表でもスペースの問題もあり、過去5年までしか掲載していません。新しいものについても過去3年がよいのか、過去5年がよいのか、その場合の見やすさはどうかということもありますので、引き続き、検討したいと思います。

委員 「施策名」と「内容」がほとんど同じのものが多いように思いますが、目的であったり、具体的な内容であったり、市民協働で行っていたりというようなことが入るといいと思います。

委員 事業計画だと思いますので、市民に見せるものと行政内部で持っているものと違ってくるとは思いますが、過去のものはどうするのかという他のところの資料で見やすいものもあったと思いますので、見せ方を考えていただければと思います。

委員 A、B、Cというような評価はしないということにしても、数字に関しては、参考値としてもあった方がいいと思います。

令和11年度までの数字を入れていくとなると、紙が長くなってしまいますので、その時の直近の1、2年を取り出した数字を入れるなど表の作り方はあるのではないかと思います。

委員 完成したら何部くらい刷って、どちらに置く予定ですか？

事務局 インターネット上での公開で、印刷する予定はないです。

委員 紙ベースでないのであれば、いろいろできるのではないのでしょうか。

委員 ここに出ている事業、それぞれで目標は違うと思うのですが、目標が参加人数なのか満足度なのか、それがわかるようになっていると、効果がわかるようになるのではないのでしょうか。

事務局 複数の部署にわたるものになるので、それぞれの部署に話を聞きながら検討していきたいと思います。

委員 矢印の向きの部分で気が付いたのですが、障害者福祉に関するところが横ばいの矢印となっています。社会的に障害者福祉、高齢者福祉が注目されている中で、これはあまり好ましくないと思います。

障害者関係の取り組みは参加者も人数も増えているのに、矢印が横ばいとなると積極的に取り組みをしていないように見られてしまうと思うので、ご検討いただいた方がよいかと思います。

委員 この矢印について、文化財の指定数の矢印は上向きなのに市民文化資産の指定数の矢印は横ばいで、数字上は違いがないのになぜ矢印は違うのだろうか、何か意図があるのだろうかと思ってしまう部分があります。

委員 矢印はもうやめてしまってもいいのではないのでしょうか。新しいものでも継続しか書いていないですし、矢印はやめて、数字だけでもいいような感じがしました。

委員 過去の経緯として、何かをやめて矢印にしたような記憶がありますが、いかがだったのでしょうか。

委員 否定的な表現だったものをやめたのだと思います。

委員 矢印はいらないですね。どうしても矢印に目が行ってしまいますね。それであれば、継続とだけ書いておけばいいかもしれないですね。

委員 例えば、劇場や文化会館の稼働率を上げよう、利用者数を増やそうというのは、今後の方向性が明らかにわかっているのはいいと思います。ただ、いろいろな教室や講座にまで維持や継続というように何かを示すのは違和感がありますね。

事務局 この指標に出ている取り組みは継続して行われる事業を選んでいるので、基本的には来年で終わってしまうようなものはないはずです。

お話にありましたとおり、劇場の数字を増やしていくというようなわかりやすいものもあれな、向上や維持という表現が適さないものもあります。他にも、例えば、会場のキャパシティの問題で、上限が決まっているものに対して、向上と言っても限界は出てしまいます。今後、矢印の表記であったり、継続や他の言葉での表記であったりは検討していきたいと思います。

委員 何か新しいものを行う、あるいは何か方向を変えるというような場合、この進行管理表では見にくいのではないかなと思いました。

例えば、令和5年度の報告を令和6年度の秋に伺うとしても、その時点で令和6年度の予算は決まって、動いている状態ですよ。進行管理表を見ながら、何か新しいことを考えましょうという、その前の年にはスタートしていないといけないですよ。令和11年度までという長いスパンで検証しつつ加えていくというシステムをどういうふうにするのだろうかと思いました。例えば、新しく始まったものがあれば、新規継続と示さ

れ、新規の取組をどう検証していけるのだろうかと思いました。どうしても新しい発想を進めるというのが難しいように感じます。

委員 本来的には新しい発想を議論することも審議会の役割だったはずで、表をどうするという議論だけではなく、以前にはいろいろな議論を行っていました。例えば、今は話題にも出ませんが、文学碑も建てることは建てましたが、それ以降、特に議題にも何もなっていない。年に一度はこの議論が必要だと思いますが、毎回こればかりでは文化振興審議会の在り方ということを考えないといけないと思います。

委員 横須賀市が文化元年と打ち出して、全国に先駆けて条例を作り、文学碑も作りました。その後、予算が厳しくなったからということでやめてしまいましたが、作った以上はPRしていく必要はあると思います。久里浜の蒸気船の碑などは傷んでしまって、字が読めないし、周囲は草が生い茂っています。これから作らないにしてももっと大切にしてもらいたいと思います。例えば、文学碑めぐりなどをして、見る機会や訪れる場面を作っていってほしいです。

委員 今あるものをどうするか、これからどんな文化をはぐくみ、どうアピールしていくかという議論も審議会の中でやらないといけないと思います。

委員 かつては、美術館を作りましょうという大きな目標に向かって、一丸となって取り組んでいった時もありましたよね。進行管理表では何が焦点かというのも見えづらいように思います。

委員 委員の皆さんが貴重な時間を割いて集まっている以上は、横須賀市の文化の現状、これからどういう方向に持っていきたいのかということ審議するというのが本来の目的であったように思います。

委員 私も同じように感じる場所がありまして、かつてはもう少しいろいろな議論をしていたように思います。今忘れられているけれど大切なこと、新しく考えないといけないこと、そういった横須賀の文化的な課題を審議する時間が必要なように感じます。そういう機会を作っていただければと思います。

委員 事務局への質問ですが、審議会の時期は決まっているものでしょうか？

事務局 次年度に関しては、2回開催する予算を計上しています。必ずしも年度末にということはありません。例えば、上半期に1回、下半期に1回ということも考えられますし、議事の内容により、開催時期は検討できればというところです。

委員 文化振興基本計画の策定段階では、委員の皆さまがいろいろなものを持ち込み、持ち寄って、計画に盛り込んでいただいているように思います。計画ができた後というのは、やはりその計画を点検するというのも必要なことにはなってくるように思います。その計画の期間中でも新しい意見や新しいものを持ち寄れるようになればいいと思います。

委員 その他に、ご意見などはありますか。ないようですので、次第1は終わります。

議事

次第2 その他

- 委員 次第2、その他ということで事務局からお願いします。
- 事務局 3月中旬に議事概要の確認をお願いし、3月末に議事概要と進行管理結果報告書をホームページ上で公開予定です。
- 事務局 本日は貴重なご意見をいただきましたので、内部で検討し、整理をしていきながら、取り組んでいきたいと思えます。本日はありがとうございました。
本日が令和4年度からの任期中の最後の審議会となります。今期は新しい文化振興基本計画の策定にご尽力いただき、ありがとうございました。進行管理等については、引き続き、検討し、ご相談させていただきたいと思えます。
- 委員 他に何かございますでしょうか。
本日の議題はすべて終了いたしました。
では、これもちまして、文化振興審議会を閉会いたします。